



天ネブ

札幌天文倶楽部会誌

2005-63_三号

今年は近場に戻って星空と火星を見るはずだったが... 雨に祟られた ニセコ東山山荘合宿

日程：2005年9月17日(土)～9月18日(日) 1泊2日

場所：ニセコ『東山山荘』

参加：道新文化センター 渡辺和郎・阿部圭子・竹山すみえ・清水麻千子・高倉和子・中村篤子
札幌天文倶楽部 阪野文昭・佐藤智秀・佐藤麻子

佐藤 麻子

相変わらずの雨の中

今回の参加者は(も)、殆ど道新文化センターの受講生で占められていて、3名の倶楽部会員は受講生の皆様の星見のお手伝いとお供という気持ちで出発した。特に佐藤家2人は、「久しぶりに阪野さんと、七輪の火を見ながらお酒が飲めるぞよ～！」の意気込みのみで、七輪と炭だけは忘れずに車に積んで出発した。今回も雨に見舞われ、天気が回復する見込みが無く、東山山荘の軒下での炭火と二日目に予定しているそば打ち体験を楽しみにするしか無かったのだ。

しかしその前に、佐藤智秀には仕事があった。超多忙な阪野さんの代役で、10時30分から12時まで『ジャスコ平岡店』内で行われる“電気工作教室”の、指導をするのだ。何と初老のおじさんと1対1らしい。「う～む、大丈夫だろうか、ま、自分も初老だから大丈夫かなぁ」と思いながら、店内を少しブラブラしながら、一緒に買い物をする手はずになっている渡辺会長を待っていた。待ち人は来ず、「何かあったのかな...遅れるなんて珍しいなぁ...」と心配しつつ、書店内をグルグル周り2度もトイレに入って暇を持て余し、ポーッとベンチに座っていると、見覚えのあるキュッと締まった小さなお尻と長い足が視界に入った。体型からして渡辺会長であるはずもなく、「阪野さ～ん」と、思わぬ場所での再会の嬉しさに黄色い声をあげた。

他の参加者とはお昼過ぎには真駒内で待ち合わせているはずだ。受講生の方は何を飲むのか食べたいのか解からず、足りなければまた選んでもらう事とし、時間も無くなりつつあったので阪野さんと2人で先に買い物をしてしまうことにした。阪野さんが大量のビール券を差し入れてくださり、飲物に関しては殆どそれで賄う事ができた。感謝！感謝！。飲物を買って終わった頃に、渡辺会長が「おうっ」と、一人の受講生高倉和子さんを引き連れてやってきた。彼女との待ち合わせに時間がかかったらしい。どうも、高倉さんが会長宅前に着いた時、電話をする予定が、勘違いでメールを発信していたようで、連絡がつかなかったようだ。会長は電話が来るのを待っており、高倉さんはメールを発信したのに、なしのつぶてで、お互い数十mの地点でただやきもきしていたようだ。

計4名で受講生からリクエストのあったおやつ類、夜食になるような物...ま、いつものナス・うす揚げ等だが...を選び、「前に智さんが、豚肉焼いてくれたよね...美味しかったなぁ」との控えめな一言で、阪野さん御所望の豚肉も買った。

丁度お昼も過ぎ、佐藤智秀もやっとお役ご免。渡辺会長と高倉さんは、他の受講生の待つ真駒内の待ち合わせ場所へと一足先に向かい、残りの3名は荷物を積み込ん

だ後、追いかける事にした。ジャスコ平岡の駐車場が広い上、車検のために代車でいつもと違う阪野さんの車を探すのに一苦労したが、雨がパラつく中荷物を積み込み、阿部さん・竹山さん・清水さん・中村さんの待つ真駒内へと向かった。こうして総勢9名、車3台で、回復の見込みが100%無いドンヨリとした暗～い空の下、合宿地のニセコへと出発した。

相変わらずの東山山荘

お昼は当に過ぎており、お腹も空いているという事で、藤野にある蕎麦屋のチェーン店『鶴喜』に入った。9名一度に入れるといたら、そのくらいの店しかないだろう。二つのテーブルに分かれて座ったが、佐藤麻子は、出先で渡辺会長とお蕎麦を食べる時、少々緊張する。それは、渡辺会長のお蕎麦の食べ方が早すぎるからだ。自分は食べ方が遅いほうなので、「おう、まだか。ほら行くぞ」と、言われないように、密かに頑張ってお蕎麦を食べていた。それ故「会長のより、私のお蕎麦が先に来ますように...」と祈りながら、運ばれるのを待っているのだ。しかし、大体いつも先に来るのは渡辺会長のお蕎麦で、今回も祈りが通じず、自分なりにかなり必死にお蕎麦をすすった。当の渡辺会長は受講生の方々と楽しく談笑しながら、早々と平らげた。私は「受講生...は、阿部さんと竹山さん以外は誰が誰だかよく分からん。ま、いいか...」とキョロキョロして余計な事を考えながらも何とか食べ終わり、蕎麦屋を後にした。

中山峠までの道のりで一度、定山溪のPでトイレタイムを取り、峠の道の駅で小休止。竹山さんは「やっぱこれでしょ！」と言いながらホクホクの揚げ芋を買ってきて、ご馳走してくれた。峠の道の駅は、建物が新しくなったり隣にコンビニエンスストアが出来たりして、様子がすっかり変わってしまって、何だか寂しい気がする。しかも冬期間は営業していない。揚げ芋も、昔は、使い込んだ古く大きな釜でおばちゃんやおじちゃんが揚げていて、味が有ったよなぁ～。最近トイレに寄る位で、揚げ芋もすっかり買わなくなってしまった。

後はひたすら道なりに走って行くだけだ。喜茂別を抜け、ニセコに入る。東山山荘まではもう少しだが、ニセコ道の駅で一休みの為車を降りる。土曜日ということもあり、なかなかの賑わいだった。ニセコ道の駅も、来る度に店が増えているような気がする。地元産の野菜・軽食・ソフトクリーム等々。佐藤家は、ホットコーヒーを探し、小さな看板を見つけた。あまり美味しくなく、紙コップ1杯250円は高く思えたが、「ま、こんなものか」と、車の中でコーヒータイム。晴れていたら、皆で羊蹄山バックに記念撮影でもするのになぁ、と思いながら、何もする事が無くポーッとコーヒーをすすっている



ニセコ道の駅で小休止。東山山荘まではもう10分だ。

と、「なんだあ、車の中にいたのか」と、渡辺会長が出店のほうからやってきた。さっさと車に戻っていた佐藤家2人は、どうやら捜されていたようだ。

その後ニセコ道の駅を出発し、懐かしの東山山荘へ向った。ニセコ東山地区に入り、比較的綺麗なペンション群を横目に奥へ奥へと上ると、そこには、ボロ...とは言わないが、相変わらずの佇まいで待っている、東山山荘があった。本当にこんなにも変わらないものか？というくらい変わっていない。渡辺会長によると、子供が2人に増えたとの事で、変わった事と言えばその位か。勝手知ったる何とかで、荷物をもって上がりこむ。美女と野獣の夫婦と、お母さん似で本当に良かった可愛い在麻呂(ありまる)君4歳が、迎えてくれた。あれ？もう一人増えたはずでは？と思ったが、どうやらガセネタだったようで、結局、全てが相変わらずの懐かしい東山山荘だったのだ。



東山山荘のオーナーは札幌市西区西野に家がある。ちょうど阿部さんの家の近所ということで話が盛り上がった。向野家族のご亭主(左)と一粒種の“ありまる”君。側には犯罪とでも言うべき若い奥様が...

相変わらずの宴会...これで、ええ～んかい？

16 時前には到着していたので、荷物を運び込んだ後は夕食まではまだ間があった。しかし、雨模様の為、夜間観測の予習をする必要性も無く、かと言って特別する事も無く、何となくお茶を入れ始めたりお菓子を上げたりし始めた。佐藤家2人は、雨も降っている事だし、「阪野さんとお酒を飲む...」という今回の大きな目標を達成すべく、ビールの栓をシュボッ。ま、格好つけて言っ

ても、ただ阪野さんと飲みたいだけ。でも、お酒類は阪野さんのおごりだが...。受講生の方々にも勧めたが「この時間からはチョット...」と言われ、飲みたいと思った人も遠慮したのか、結局3人で机の隅で小さくなって？堂々と酌み交わしていた。やはり、朝からお酒を飲んでも何も言われない外国に移住するしかないか。渡辺会長、やっぱ、ニュージーランドですかね。こんなこと言うから、佐藤家は飲兵衛というありがたい呼名を頂戴するのかね。週に1・2回飲む位なんだけどなあ...。と、ぼやいてみました。

ま、とにかくお茶有りお菓子有りビール有りの宴会らしきものが早々と始まり、あとは渡辺会長の話術が頼り。それを肴にお茶やビールを飲むしかない。しかし「腹、もよおしてトイレに行っても、直ぐに出ないんだよね、うんち...」等と、お腹を摩りながらの、やはり相変わらずの肛門期。これが、国内外に名を知られている大人物だとは...。そして、突然佐藤麻子に矛先を向けるや否や、「神島(佐藤麻子の旧姓)も痩せたり肥えたりするなあ。因みに今は肥えてる時期か？」と、まるで放し飼いの牛のように言われ、これも相変わらずのセクハラ。「会長だって昔は細かったじゃないですか」とやり返して直ぐに失敗に気付く。「いや、俺の事はいいからよ。今は太ってる時期か？」と、自分の事は手の届かない高～い棚の埃のかぶった最上段に置いて、即座にやつつけられた。そして肛門期&セクハラ話でこのまま時間が過ぎるのかと思ったが、阿部さんが何やらゴソゴソとバッグから取り出した。何を思ったのか、模型の専門店に組立て式の紙飛行機を買ってきたようだ。阿部さんは、やはり独特の世界の人だった。たまに突然、不思議な行動をする。今回は、ダラダラしそうな宴会に新風を吹き込んでくれたのか。しかし自分で組み立てるのかと思いきや、阪野さんと佐藤智秀の所に何気なく持ってきた。「組み立ててね」ということらしい。ビールも入って気持ち良くなっていて、「え～」と言ったものの、優しい二人は沢山のパーツを切り離し始めたのだった。阪野さんに至っては、専用の接着剤まで車の中まで捜しに行き、「結構大変だ」と言いながら格闘し、「イヤ」と言えないオヤジ2



メインはラムシャブといったって簡素な夕食

人で完成させた。在麻呂君の手に渡ったその飛行機は、その後どのような運命をたどったのだろう。

辺りも暗くなり始め、夕食の時間。ま、悪天候だから元々暗かったが。これも相変わらずの(あ、失礼)、シャブシャブの鍋が登場。机にお刺身・煮物・酢の物等が並んで、改めて乾杯した。春の宿泊



夕食に喜ぶ3人(左から渡辺・高倉・竹山)

なら、これに山菜の天ぷらが加わるのだが、今回は我慢だ。そして渡辺会長が「ウドの天ぷら美味いんだよな～。やっぱり春の東山山荘合宿を恒例にしないとダメだな、佐藤さん」と、言ったのだが「んー、でも僕は春のキャンプで採りたて山菜の天ぷらを、タラフクご馳走になっているからなあ...」と、肯定も否定もしなかった。佐藤智秀が渡辺会長の話に賛同しないなんて珍しい。でも、アウトドア関係位しか言い返したりできないか、旦那は。と納得した。佐藤智秀に賛成されなかったのが寂しかったのか、渡辺会長は二つの鍋の間に座ったのをいいことに、「入れちゃうべっ。おらおらっ!」と、親の敵のようにドサドサお肉を両方のお鍋の中に突っ込み、「うわー。ゆっくり食べましょうよ。いやぁーん」と言われてヒンシユクをかったいた。



向野オーナー(中央)と久しぶりに語らえた佐藤夫妻(両端)



夕食後は雨の中、山荘の玄関先で七輪を囲む。焼き茄子の洗礼を受けていないメンバーのため佐藤さんの腕がなる。星のことは雨で全く話題にならない。



焼き茄子のおいしさをあらためて知った中村篤子さん(左)と高倉和子さん(右)。

食事後は観測...出来る訳も無く、壁に投影された皆既日食の映像を見ながらの講義。受講生は真面目に聞いていた、と思うが、佐藤麻子是不真面目なものでビールを飲みながらホロホロ酔っていた。佐藤智秀に至っては、玄関の軒下で七輪に火を起し始める始末。悪天である以上、彼にとっては、阪野さんと七輪を囲んでお酒を飲むのが、この合宿の目的なのだった。こうなるとは、渡辺会長も諦め顔。各自ジャンパーを着込み、徐々に人が外に集まる。お風呂に入る人もいたので、入れ替わりで七輪の火を囲んだ。ナスを焼き始めると、山荘のご主人がお皿とおろし生姜を用意してくれ、七輪の会が始まった。焼きナス未体験の人もいたようで、その洗礼式の場ともなった。その後も薄揚げ・豚肉等が美味しく焼かれていき、初秋の夜長を相変わらずの宴会で楽しんだ。これでええ～んかい? 何つって...

相変わらず、違う事がメインで...

次の日、目が覚めて一階に降りたのは8時過ぎだったろうか。寝たのが夜中の2時くらいだったので、約6時間の睡眠時間だ。東山山荘に来てこんなに寝たのは初めてだ。観測に出掛けなくても、外にいたり一階で話し込んでいたりそのままゴロゴロしたりして、布団にくるまって睡眠するということをしたことがないのだ。今となっては懐かしい思い出か。熟睡した寝坊達を一階で迎え



朝のひとつき、阿部さんの持ってきた“きんつば”で雑談。

てくれたのは、早起きの渡辺会長。観測疲れがなく、エネルギーが有り余っているようだ。その後、起きてきた順番に朝ご飯を頂いた。阪野さんには、「昨日飲み過ぎ

たかも…」と言いながら皆に気を遣って、外でタバコを吸っていたのでコーヒーを出前した。中に居る皆は、食後のティータイムとおしゃべりタイム。阿部さんが昨日、二セコの道の駅で買ってくれていた手作りキンツバをご馳走になりながら、ゆっくりと贅沢な休日の朝を過ごした。

貸し切り状態に甘えてゆっくり目に宿の精算を済ませ、10時30分位に出発準備をした。玄関前で記念撮影【表紙写真】をしてから東山山荘に別れを告げ、車を出した。そば打ち体験の11時30分の予約までにはまだ時間が有ったので、通り道にある高橋牧場の「ミルク工房」に寄った。正確に言うと「二セコヌプリホルスタインズミルク工房・自然学舎」と言うらしいが、なんと長いそのまんま、という感じ。しかし、その辺りには他に見るものが無いので、大変賑わっていた。次々に駐車場に車が入ってくる。以前来た時よりも店舗が拡張されていて、新たに手作りシュークリームなども売られていて、長い列ができていた。人の多さと甘～い匂いに酔い、何も口に入れる気になれず、外をフラフラして過ごした。自然学舎の写真館は閉館中で、やる気が感じられなかった。ヨーグルトやアイス、シュークリームで儲かり、他の事はどうでも良くなってしまったのか。そうこうする内11時を回ったので、車の中で皆を待った。



会長はここで売れ筋のヨーグルトを10本買い込んでいた

ニセコ・アウトドアセンター

観測が出来なかった以上は、蕎麦打ちがメイン行事だ。予約したニセコアウトドアセンターに到着後、一人2,500円で受付して早速体験コーナーへ向った。大きな倉庫のような場所で、一角にそばを茹でる台所が有った。先着のグループの作業が終わりそうで、その次に順番が回ってきた。一人で全工程を行うのではなく、9人で男女2名の師匠で、2グループに分かれて二つのこね鉢を使った作業だったので少々残念だったが、教わり始めて大変さがわかった。こね・のし・切り等々行程があるのだが、またその前後やその中でも細かな行程や約束事が有り、奥の深さを知った。「一人一鉢なんて、10年早い」と言われそうだ。しかし人は、土団子を作って遊んだ時代から、こねたり混ぜたりが大好きなようで、皆一様に順番にそば粉と戯れていた。腰を入れた作業がしばらく続き、のした後ははいよいよ蕎麦切りだ。こま板と蕎麦切り包丁を手にするのは皆初めてで、フレミングの法則を崩したような手の形でこま板を軽く抑え、恐る恐る包丁を下ろしていく。リズムカルに動かすのは至難の業で、太くなったり細くなったり…。でも楽しく何とか無事に切り終



蕎麦打ち師匠の手ほどきを見ながら一人づつ体験をしてゆく



やっぱり、うちたては美味しいね…

え、後は茹でてもらって運ばれるのを待つだけだ。ざるに盛られて茹であがった蕎麦が登場。艶々して意外と美味しそう。なんと言っても自分達で混ぜてこねてのして切った蕎麦なので、美味しさ倍増で、あっと言う間に食べ終えてしまった。蕎麦つゆもまあまあ美味しく、蕎麦湯も勿論いただいた。うーん、美味しいものを食べる行事は、やっぱり楽しいかも。

ところで、倶楽部員の私たちは、これで結構楽しかったのだが、講座の受講生の方たちはどう思ったろうか？ 天気が悪かったとはいえ、星の行事で“蕎麦打ち”をしている自分を冷静に見たら、「何で、ニセコまで来て、蕎麦打ちしなきゃならないの？」と思ったに違いない。それも楽しいことのひとつと感じてもらえたのならいいのが、これで終わりにしたいと思われたら立場がない。

今回のメイン、蕎麦打ちを終えた一行は、お蕎麦で膨れたお腹を抱えて帰路についた。帰りは倶知安・余市・小樽方面回りで走った。国道ではなく旧農道(フルーツ街道)を通ったので「道の駅」は見当たらず、道端で見つけたソフトクリームの看板を出している小さな店に寄り、小休止の後、それぞれの家の方面へ向った。

しかし、今回は(も)観測が出来なかったので、蕎麦打ち体験を予約しておいて本当に良かった。これが無いと、何をしにニセコまできたのか分からない。相変わらず観測以外がメインになるにせよ、無いよりましです。とってもマシです。それが楽しかったらモアベターよ。(ふ、古い…?)

佐藤(神島)麻子 記



蕎麦を細く切るときの添え板(こま板、正式な名称があるのでしょうか...)を左手で支えるときの指の格好が、Vサインに代わるこれからの主流になるという師匠。みんなでその指型をまねてV...じゃなくて、蕎麦打ち・サイン(佐藤さんが撮影)

札幌天文倶楽部 2006年 新年会開催 倶楽部の集会は“七夕か...” 1年ぶりの顔合わせ 忘年会は実施されず、何とか新年会で会おうということだったが

日 時：2006年1月13日 17時より

場 所：札幌市厚別区青葉町“寿司処”『鮎政』

出席者：渡辺会長、阪野名誉顧問、佐藤智秀・麻子夫妻、谷口明美、木下理恵、川口裕美・桜来、加賀栄一・佳苗・大智、

加 賀 栄 一

忘年会へゴゴゴ！ 新年会？

札幌天文倶楽部といえば、「鮎政」の忘年会、忘年会と言えは「鮎政」。今年(2005年)はなぜ忘年会が開催されないのか！毎年、我が家では、天文倶楽部の忘年会に家族揃って出席し、1年の締めくくりを迎えていたのです。小上がりで息子の太智が大暴れしているのを見ていたこともありまして。ところが、2005年は「鮎政」での忘年会はなしで、年が過ぎてしまったのです。

きちんと年中行事をしなかったためか、年末はしまりが悪かったのです。まず、群馬の実家に帰省する時にフェリーを使用しましたが、札幌・苫小牧間は、降雪のため高速道路がストップし、一般道を5時間程かかって、やっと無事に苫小牧のフェリー乗り場に着きました。また、フェリーは結構揺れたため、カミさん佳苗はグロッキー気味になりました。大洗から群馬までは国道50号を使用しましたが、ここでも大渋滞。そして、更に悪夢

のような出来事が...

カミさんの実家に、お節のセット送るように業者に依頼していたのですが、何と届かなかったのです！届かなかったことを知ったのは、紅白歌合戦が終盤になってからのことでどうにもできませんでした。結果としておせち料理のない家庭を作ってしまった。【新聞で話題になっていました。力量以上に注文をとったためということでした】

これはきっと「鮎政」の忘年会で1年を締めくくらなかったためだと思っていた矢先に、佐藤さんから鮎政新年会の開催のメールがやってきたのでした。初詣で引いたおみくじが“小吉”だったので、1年を更に盛り上げるため、また、前厄のお祝いも兼ねて、「鮎政」忘年会での締めを改めてするべく、「鮎政」新年会への出席を決めたのでした。

予定の全員が集まり、早速乾杯！



やはり、活動の低調さを表すように出席者は少なかった。しかし、倶楽部創立から8年よく続いているものです。天文年鑑の2006年版をもって、左前列から佐藤智秀、川口裕美(抱っこは桜来)、加賀かなえ(抱っこは大智)、加賀栄一、後列左から谷口明美、木下理恵、佐藤麻子、阪野文昭の皆さん(渡辺和郎が撮影)。

新年会に誰が出席するのか確認せずに、車で「鯨政」に到着する。少なくとも佐藤さん、阪野さん、渡辺会長の3人は車で来るだろうと考えて、駐車場を効率よく使用できるように駐車位置を修正していると、佐藤智秀・麻子夫妻と阪野さんが一緒に徒歩でやってきた。どうも、地下鉄新「さっぽろ駅」からやって来たらしい。その後、川口裕美・桜来親子が車で登場し、次いで谷口明美さん、木下理恵さんが歩いてやってきた。何故か渡辺会長の到着が一番遅くなったのです。とはいえ、時間はちょうど定刻の17:00。小出美穂さんは仕事のため遅れて来るらしかったが、結果として、小出さんは仕事が長引き欠席でした。

阪野さん、佐藤夫妻、木下さんはビールを注文。木下さんはお酒が結構強い(好き)らしい。会長はリンゴジュース、谷口さん、川口さん、加賀栄一・佳苗はウーロン茶。そこで乾杯！ 桜来・大智の倶楽部チルドレン2人は、コップを持っているふりをして乾杯に参加しました。この時点では倶楽部チルドレンは空腹のためか割と静かでしたが、この後、例年どおり倶楽部チルドレンが宴会こあがりの空きスペースで大暴れしたのはいうまでもありません。

会長が生徒！「何しているの」の巻き

渡辺会長は、現在、北大の教育組織「科学技術コミュニケーション・養成ユニット」において、週のうち3日から4日程度勉強しているとのこと。その内容は、道新(18.1.28付)によれば、研究者と市民の間に立つて科学技術の面

白さや社会的な課題を伝える中間の人材の育成を目的としている。この養成ユニットの実践的な研修として、「サイエンスカフェ(場所は紀伊国屋書店札幌本店)」を開催したり、FM放送のサイエンス番組(30分)“三角山ミニFM放送”の実施をしたりしている。養成ユニットでは43人が学んでいるが、殆どが大学院博士課程や社会人の受講者ようだ。この養成ユニットの活動内容については、本年(18年)1月23日7:30からのNHK「おはよう北海道」でも取り上げられており、養成ユニットのようすを紹介する写真の中には、渡辺会長となすびの洗礼を受けた遠藤哲也さん、(昨年(17年)11月3日の火星大接近観測会に初参加)が机を並べて学んでおりました。皆さん、この「おはよう北海道」を見ましたか？

渡辺会長は、養成ユニットの中でも、実習はラジオ放送に参加しているとのことでした。養成ユニットが、FM三角山放送の土曜日18:00からのサイエンス番組(30分)を制作・放送しており、会長はこの番組の中で、約3分程度(400字詰め原稿用紙1枚程度)の、“見上げてごらん夜の星を...”という、天文豆知識を自分自身の声で語っているとのことでした。

実際に1月28日(土)の番組を聞いてみました。この時の“見上げてごらん夜の星を...”は『双眼鏡』を取り上げていました。司会・アシスタントの二人が質問し、渡辺会長が回答するスタイルで、どんな双眼鏡が天文観察に使いやすいのかなどを説明しておりました。

養成ユニットは大変です！の巻き

渡辺会長が実習しているラジオ放送では、受講生の 1 人にアナウンサー志望で実際に HBC でアルバイトを数年にわたりやっている女性もあり、この番組では司会の先生のアシスタントになっているそうです。そして、実習の中では、この女性自身の流暢な語り口と、渡辺会長をはじめとした他の方の語り口とが比較されるというのです。

渡辺会長が言うには、「番組のシナリオは任せられているのだけれど、上手くしゃべれない」。シナリオを実際に読み上げる語り口が思わしくないようだ。「自分の語り口が、一番最初に取り上げられて、批評されるんだよね。俺の時だけ、批評の内容は細かいことは何も言わずに、前回より良くなっていますねとかで…。そんなにヒドイってことなのかなあ…」と寂しそうにしています。つまり、他の人は細部のアドバイスが多いのに、会長のはアドバイス以前の問題だといっているのです。「でも、これまで何度もシナリオを読み上げて放送されたので、徐々に上達してレベルアップしているのは実感している。過去の読み上げた内容はほんと聞きたくないくらいだ」と言っていました。会長、実際に聞いてみましたが、緊張した声でしたけど、良かったですよ。そして、チャレンジするハートを常に持ち続ける会長の姿勢には頭が下がります。

養成ユニット「実例問題」の巻き

巷では、いろいろな話題の商品を取り上げる“買ってはいけない…”という本が売れて、その内容が過激すぎるため、対抗する形で“買ってはいけない…を、買ってはいけない”という批判本が発売され、両方とも売れているという。その中の両者の記事を比較してコミュニケーションとして論拠を示して批判しなさいという課題があったという。

「桃の天然水は買ってはいけない」と「桃の天然水は買ってはいけない、を、買ってはいけない」。この 2 つの主張はそれぞれ正しいのか！ 間違っているのか！ 養成ユニットの実際の課題とされた 5 つの問題の中で、他の 4 つはほぼ批判が同じように片寄せたのに対し、会長と大学院生とがこの課題で回答内容が正反対となったため、先生がディベートにより勝敗を決することとしたそうです。

会長の主張：「両方とも正しい」

「桃の天然水に限らず、コーラ、サイダーなどには、1 リットルにつき、スティックシュガー 15 本分以上の砂糖が入っていて、日に 1、2 リットルも水代わりにガブ飲していると糖尿病になってしまう危険性をばらんでいる。そこで、なぜ桃の天然水だけを槍玉に挙げたかは、水代わりになる天然水というネーミングが悪かった。要するに、ガブ飲みを止めることが大事なのである。桃の天然水は単なるスケープゴートであった」という内容

大学院生の主張：「両方とも間違っている」

「桃の天然水自体には、良いも悪いもない。天然水を飲むのは人であり、飲む人の問題で良くも悪くもなるので“桃の天然水”だけを悪者にするのは間違い」といった内容

会長と大学院生のディベートの結果はどちらに勝利の軍配があがったのでしょうか。結論からいえば、「年の功」により、渡辺会長が勝利したそうです。先生が言うには、「いつの世にもスケープゴートがあり、桃の天然水もその一つですね」とのコメントであったそうです。

会長は、カルピスを水代わりに飲んだために糖尿病を宣告されたことのある実体験を基にして、自説を説明したとのことですが、実体験を基にした主張は他の受講生にとって迫力があり、会長の説に説得力をもたらしたのではなかったか…と思いました。

但し、鮎政で話を聞いていた倶楽部会員の中では、会長が勝利したと思った人は、若干少なかった気がします。

養成ユニット「厳しいぞ！」の巻き

以上のような問題が養成ユニットでは頻出し、受講生が回答した内容について、現役だった NHK 記者や大手出版社勤務の実績のある先生が受講生の前で 1 つ 1 つ批評しながら論評を加えていくそうです。

例えば、「氏を批判しなさい」との出題では、「氏のしゃべり方や態度が気に入らない！」などと個人の良し悪し等について批判を書くと、先生が悪い手本として最初に取り上げるそうです。先生は説明の中で、「氏の主張」は、どういうことであり、という事実反しに反しており、誤っている」と、論理的に反論しないといけないと指摘するそうです。正確に相手の主張を理解し、論理的に反論していくような姿勢をたえず持ち続けるのが批判というものであり、そういう姿勢が大事であると説くのだそうです。聴いているだけで、緊張感のある授業のようです。

とにかく、最初に悪い見本として論評される生徒(渡辺会長)は、精神面でもタフでないとやっていけないだろうなあ～と思わずにいられませんでした。

ロンパールームの巻き

桜来ちゃん(もうすぐ 3 歳)を連れてきた川口さんに新年会レポーターの役目が渡辺会長から宣告されたのですが、その後、その役割が加賀に回ってきました。やはり、倶楽部チルドレン 2 名の大騒ぎをとめられるのは、母親である、川口さんとカミサン佳苗しかいないのです。

桜来ちゃんは、食事もそこそこ遊びに夢中となり、時々大きな声で叫んでいる。大智は、集中して食事を済ませると、桜来ちゃんの玩具で遊ぶとする。時々、玩具の取り合いになり、川口さんの仲裁が必要になる。カミサン佳苗も適当に 2 人の子どもを気かけながら大人しくさせようと思っても、子どもはそんな手には乗ってくれない。鮎政の小上がりの半分がロンパールームとなっていました。

会長の科学技術コミュニケーション養成ユニットの話が、時々子どもの声でかき消される始末。恐るべし、子どもたち。そして、新年会参加者の皆様ご迷惑をかけました。この場を借りて謝罪いたします。

会長は何でも知っている！の巻き

会長の養成ユニットの話もおおよそ終わりに近くなると、何故か、会長が倶楽部会員の年齢を確認し始めていた。会長と佐藤智秀さんはともに 50 歳だが、佐藤さんは早生まれ、加賀は 40 歳、谷口さんは 46 歳、佐藤麻子さんは 43 歳、佳苗は 歳、木下さんは 32 歳、阪野さんは不詳、川口さんは 歳…と続いていく。渡辺会長は未成年で、佐藤智さんは申年…と続いていくと、そこでいきなり、谷口さんが「佐藤さんて、やはり本当に猿(申年



二人の子供が宴会の席の隣で大暴れ...、倶楽部新年会はロンパールームと化している

「んだ...」と感心することしきり。倶楽部会員の周知の事実を改めて噛み締めているようであった。

年齢の話から転じて、何故か、渡辺会長は木下理恵さんに「今年結婚するの?」との質問をし始めていた。会長その発言、セクハラですよ...。セクハラは人を見てやれ!とは名言である。会長は、木下さんの飲み具合をキチンと知っていて、木下さんがセクハラで訴えるかどうかのギリギリのラインを押し量っていたのだろうか。

木下さんは、「今年はありません。今年結婚しなくても、見通しがついていればいいのだけれど...」との弁である。2歳年下の公務員と2年程度付き合っているらしい。そこで、渡辺会長は「そんなんなら、分かれたほうが良い!」ときっぱり。一方、阪野顧問は「これまで付き合ってきて、分かれたいのは二人の間に何かがあるからでしょ。そこが大事だよ...」と話し始めている...。この話の行方を気にしていると、なんとこんな時に、息子の大きさが小上がりから出て行こうとするではないか。しかも、佳苗がおらずノーマークである。こんな大事な時こそ、レポートするために、席にいたいものを...。しかし、事情が許さないとはいこのことよ。ああ、残念、席を離れて大智をあやしているうちに、席では、阪野さんの語りや笑いが続いている...

少しして、かみさんが現れ、大智を渡して席に戻ると、話題が変な方向に向かっている。木下さんが、僕がなぜ結婚したのか聞いてくるではないか! 文脈の良く分からない中で、僕の恋愛過程を話すのは極めて危険である。しかも、カミサンもいる中で...。許してね、木下さん、皆な、いろいろあるんだと思うよ...と谷口さんに助けを求めて、谷口さんの結婚の理由を尋ねると、渡辺会長は「谷口さんとこは、旦那がかわいくて仕方ないから、結婚したんだよ...」と間髪言わずに答えてしまった。会長はなんでも知っている!

会長から「天文年鑑」渡される

会話も進んでいくうちに、会長から木下さん、谷口さん、川口さん、加賀家などに先着順(?)で天文年鑑をいただきました。ここで恒例の倶楽部会員の記念写真の撮影を実施しました。整列だけでも時間がかかる。倶楽部チルドレンはお構いなしである。桜来・大智を最前列に座らせ、天文年鑑を手を持たせて、やっと楽しく写真を撮ることができました。



お通しとちゃんこ鍋が終わったら、鮪政のお寿司が並ぶ。

そうこうしながら時間が経過する。倶楽部チルドレンは、周囲に大人がいる環境のため眠るにも眠れないらしく、ふらふら歩いたり、奇声を上げるなど遊び続けていた。

テーブルを囲む大人は、既にお刺身、お鍋、茶碗蒸し、ホタテ、握りずしなどを堪能し、お酒で大いに出来上がっている状況だった。会長も、自宅では禁じられている豆入り大福を1つだけ食べて、残りは持ち帰るそうである。残り的大福は、ラップに包んで冷凍、1日1個ずつ食べるのだという。【残念ながら大福は余りませんでした】そういう状況の下、木下さんが立ち上がり帰宅するという。彼が外まで車で迎えに来たのである。阪野さんが言った「2人の間に何かがあるから、分かれずに付き合っているじゃないの...」との言葉を思い出しつつ、全員で「さよなら、またね!」とおそろい気分の木下さんを送り出しました。

話題は移り、3月のエジプトの皆既日食の話になる。今年の天文倶楽部の行事としては、3月29日に皆既日食があり、その観察旅行が予定されている。日食に参加しない倶楽部会員については、日食観察の報告会が次回の倶楽部行事となる計画だ。壮行会という話も出たが、誰も集まってくれないだろうから、帰ってきたら報告会だけでもしようということになった。

今年は、何回倶楽部行事に参加できるのだろうか。時間も21時近くとなっており、子どもを寝かしつける時間となってしまったため、川口親子と加賀親子は先に帰ることとする。谷口さんは川口さんの車に乗乗することとなった。

鮪政を後にすると、やっと、今年はいいい年になりそうな気がした。

2006年新年会 番外編

佐藤 麻子

1月21日の昼過ぎ、佐藤家の2名は、倶楽部顧問の阪野文昭氏に借りっぱなしのブツをお返しに、宮の沢のテクニカル工房へ向っていました。連日の降雪で車道が狭いの何の...って。渋滞が続きました。豊平区平岸の自宅から1時間以上掛かってようやく到着。科学館時代の工作室が懐かしく思い出されるような坂野工房に入ると、相変わらずの優しい笑顔で阪野さんが迎えてくださいました。少し談笑した後、昼食のため工房近くのお蕎麦屋に3人で向いました。阪野さんが「冷やしたぬき」、亭主の智秀が「梅おろし」、私め麻子が「冷たいとろろ」を頼みましたが、阪野さんが事前に教えてくれた通り、注文の品が出てくるまでに相当の時間がかかりました。私たち以外に2組しか居ませんでしたが、皆さん待ちぼう

け状態でした。平日のお昼時は、余りの遅さにお客が文句タラタラ...と言うのも分かります。お蕎麦は美味しいのに、「惜しい！」です、手際が悪すぎます。きっと、一人前づつ茹でているのでしょう。渡辺会長ともよく来るそうで、お蕎麦が来るのを待ちながら貧乏ゆすりをしている姿が、目に浮かぶようでした。このお蕎麦屋さんのお陰で、渡辺会長が少しでも気長にならないものでしょうか...やっぱり無理でしょうね。

昼食後、阪野さんは車を職場に置き、佐藤家の車で一緒に平岸まで行きました。そこで佐藤車を自宅車庫にしまい、珍しくも3人のメンバーで地下鉄南北線の大通り経由で東西線に乗って、いそいそと“新さっぽろ”に向いました。“カテプリ”に寄り、「小出さん来れるかどうか分からないし、飲むのは私たちだけかなあ〜」と言いながら、自分たちの飲むお酒類を調達しました。生ビールは鮭政で各自注文してたまにはお店に貢献するし、これで「割り勘負けする」とは、(渡辺会長に)言わせません。それにしても、プランタン改めカテプリの地下は、相変わらずゴミゴミしてまとまりの無い感じですが、ようすがガラリと変わったものです。阪野さんも「よく来たお弁当屋さんも無くなった...。お酒の種類も減った...」と言いながらも、懐かしそうにキョロキョロして買い物にお付き合い下さいました。その後、鮭政に向けた訳ですが、その近所にあった喫茶店も今時のカフェ風のお店になっていて、1年程ご無沙汰しただけでこんなに変わるものかと、3人で感心しました。

さて新年会ですが、長〜いご無沙汰をしていた皆さんと会えて、とても楽しいものでした。また、川口家と加賀家の子供たちを見ながら、成長の早さに驚いたひと時でもありました。私事で言えば、渡辺会長ともご無沙汰なのでした。昨年は体調不良の時期が長く、観測に参加できることも数える程でした。年末年始もガラガラと微熱が続き、ようやく復帰して初めての行事が倶楽部の新年会。お酒が飲めると思うと元気になるのでしょうか。あ、こんなこと言うから渡辺会長に「飲兵衛」と言われるのだろうか。そうそう、渡辺会長はこのところ、私と会うたびに同じことを3つ言うのです。今回も例に違わず言われました。一つ「飲兵衛」(ま、飲まない人から見ればそう見えてしまうのでしょうか。仕方ありません。でもしつこいようですが、毎日飲んでませんよ)。二つ「坂本冬美に似ている」(「似てない!」と言ってもいつも言うので、つつい「赤い鼻緒が.....さくら〜さくら〜」と乗ってしまうので自分にも責任あり)。三つ「神島、最近太ったか?」(確かに、体調不良でゴロゴロして運動不足で太ったから何も言えないが、つい「ほっといて下さい!」とむきになってしまう)。...以上ですが、三つ位が丁度良いと思いますので、そのバランスを保って、今後もお手柔らかにお願いいたします。

21時過ぎてから、川口さん親子・加賀さん親子・谷口さん・木下さんが立て続けに帰ってしまい、渡辺会長・阪野さん・佐藤智秀と麻子の渋〜いメンバー4人になりました。何を話していたのやら...酔ってはいませんが、あまり覚えていません。渡辺会長は気を遣っているな〜、と思った位かな...。あっ、あと、次の日に渡辺会長は釧路のご実家に行く話をしていて、「大変だ〜」と話したことは覚えています。後はオヤジ3人の話に「ふむふむ」と、適当に相槌を打ちながら一人でちゃんこ鍋を温めなおし、野菜をすくって食べておりました。

23時過ぎには鮭政前で渡辺会長とお別れしてから、来た時と同じ3人で、また地下鉄に乗って帰りました。



刺身の盛り合わせ(手前)とちゃんこ鍋(奥の二つ)

阪野さんは宴会中からいつに無く饒舌(じょうぜつ)で、気持ちよく酔っていたようですが、智秀もヘロヘロと酔っていました。2人で仲良く、結構酌み交わしていたようです。とにもかくにも、二足歩行初心者から足腰が弱くなってきた者まで、既婚者未婚者等々の老若男女が気兼ねなく集まり、わいわいがやがや宴を楽しみ、そしていつ再会するか分からないまま、何とな〜くまたお別れする...。こんな安心安全アンチエイジ?な会合って他に無いかも〜!

1月27日の冬の観察会

渡辺 和郎



2006年1月27日金曜日、今年初めての観察会を行いました。雪模様で恵庭のガストで雑談して終わりました。11頁に続く。

天文活動のためのユーザー車検

少しでも、家計費の歳出を抑えたい方は、是非ともユーザー車検を 誰にでもできるユーザー車検：手数料は1500 円ですので、高額な代行手数料を払ったり、検査とは関係ないパーツを交換されたりはしない（指定車検場では、規則等で経過時間とかで指示されたパーツを交換することになってたりするが、必要ないことが多い。）ため、安上がりだと思ふ。

ただし、手続きと受検等で半日必要。パーツ交換は、本当に使用限度で交換すれば良い。もし、車検の有効期限切れの場合は、区役所で臨時運行ナンバーを申請して行けば良い。この場合、自賠責期は必要。

（１）検査予約

電話 0 1 1 - 7 2 1 - 5 4 8 9、音声案内に従い 1 週間前に予約

1 ~ 4 ラウンドの時間帯から選択して予約

予約番号が告げられるので控えておく

（２）必要書類

これらは、全て車検場がある運輸支局事務所（北 2 8 条東 1）で説明してくれます。

自動車検査票：事務所内の 番窓口にある。記載方法及び例が壁際の机にある。走行数を記載する欄があるので、控えておく。記載する書類は 2 種類あります。

この印紙用紙の方（用紙に書いてある）に手数料印紙（案内窓口で購入：普通車 1,500 円、購入は 12：00 ~ 12：45 間、休みです。ウーム）を貼る。

重量税納付書：事務所内の 番窓口にある。記載方法及び例が壁際の机にある。この用紙に重量税印紙（案内窓口で購入）を貼る。

1000 以下 2 5 2 0 0 円（500kg あたり 6,300 円 × 年数）

1500 以下 3 7 8 0 0 円

2000 以下 5 0 4 0 0 円

2500 以下 6 3 0 0 0 円

乗用は、車両重量の方です。

継続検査申請書：書類に印鑑が必要。案内窓口で 4 0 円で購入。記載方法及び例が壁際の机にある。

自動車検査証（車検証）：本証。紛失等の場合は、運輸支局登録部で再交付できる。

自動車税納税証書：今年度の納税証書

自賠責保険証：新旧ともに必要。これは自身で契約（現在の証書の会社に問い合わせれば、札幌の支店・代理店等を教えてくれるはず）

自家用乗用：24 ヶ月 = 29,780 円 25 ヶ月 = 30,780 円

点検記録簿：前検査・後整備であることを 番窓口申し出て下さい。とありますが、ユーザーだと特に聞かれることもないようですので、もし、聞かれたら「前検査・後整備です」と言えば OK。

リサイクル料金の預託証明：2005 年 1 月以降、リサイクル法に基づく預託証明を受けることになったらしい。札幌の場合、ここの運輸支局の北隣に北海道陸運協会で行います。建物内に車番を登録する機械があるので、入力して手続きすることになる。ここでもお金が必要です。（車種で違いがあり、2000 以下で 12,000 円くらいになる）手続きが終わると車検票に「預託証明」の判が押される。

検査は、この判がないと受けられない。知らないと、「エー、ほんとかよー」ってなる。どの車も必ず登録が

必要。2005 年 1 月以降に購入した方は、どうなっているかを確認（車検証に判があるかないか）しておいた方がいいでしょう。

（３）検査

窓口を受検案内の用紙がありますので、見ておくといいいでしょう。自身でチェックしておくのは、まずランプです。切れてたりすると、再検査です。前照灯は、照度（規定照度以上のバルブを着けてる場合は、不明）よりも角度が重要です。調整方法を、メーカーに聞いておくといいい（ドライバーでできるはず）です。不安な場合は、ディーラー等でチェックしてもらうのが無難。後、駐車ブレーキを見落としがちです。甘い検査不合格となりますので、一寸した坂道で、一杯に引いて確認しておくといいいでしょう。

書類の手続きが終わったら、窓口へ提出すると、そこで、検車場のルート番号が告げられる。

この時、フルタイム 4WD とか 4WS が聞かれます。パートタイム 4WD は、2 駆にしておく。

支局の右側から裏に回ると、ルート番号毎に線が引かれてるので、車を並べる。

まず、検査官が車体番号とかの外観チェックしに来る。検査票を見せる。

車の場合、順次、検査用機械の前に移動しながら指示に従います。

慣れていない人は、検査場内に入ったら、ハザードを ON にしておく、係員が補佐してくれます。

排出ガス検査（ガソリンとディーゼルで検査機が違う。検査票を自身で差込んで記録）

サイドスリップ検査（かつてに行われる）

スピードメータ・ヘッドライト・ブレーキ検査（検査票のみ自身で差込んで記録）

下回り検査
最後の検査位置（下回り検査）では、検査中の車から降りて（エンジンオフ）検査票を書類搬送機（前方、左側にある）に入れる。

判定が出たら車を検査ビットから移動して、検査票を取りだす。

「全て合格」の時は、番窓口で書類を出して待機。順番に氏名を呼ばれ新しい車検証等が配布されます。

もし、不良箇所があったら、調整後、当日なら再検査可能ですので、検査手数料はかからない。

* 改造とか車高：エアロパーツやキャリア等は、純正の場合でもメーカーに問い合わせた方が無難。地上から 10 センチ以下は、まずいかも。

なお、キャリアを載せてる車も来てたので、大丈夫だとは思いますが

フロントガラス面には、前方視界の妨げとなるものは、一切、置かない、着けない（??検出器とか？）こと。

* 単車だと、検査員によるチェックだけ（1 台 / 5 ~ 6 分間）で済む。

単車屋さんの場合、トラックに一杯積んで、まとめて車検を受けている。あつという間に終わるが、それでも所有者は代行手数料として 8,000 円は払っているはずで、1 日 2 回は行けると「いい商売だなー」と思ったりする。そのためかどうかは、わかりませんが、個人でユーザー車検を受けてる人には優しいが、ショップのバイクは、ほんの少しのパーツ違い（純正は OK のようで、ぱっと見るだけでわかるのも凄い）も見つけて指摘しました。

2005-12-25 ユーザー車検

佐藤智秀

皆さんのお便りコーナー



風邪でダウン

【風邪で2日間寝込んでいました。やっと、気力ができたのでデネブ63号にニセコ遠征のレポート原稿をおさめました。疲れて、またぶりがえしそうです。】

快調が...あつ、失礼、会長が寝込んでいたなんて...。凄い驚きです。大丈夫ですか？疲れさせて申し訳ありませんです。まっ、美香さんの手厚い看護を受けていたとは思いますが...それにしても、本当にお気を付け下さい。フフフ...。でも、会長の頭は今のはきつと茄子のヘタ...状態？。思い浮かべると、チョッと楽しいです。実は今も、私はチョイと熱が有るのですが、ポーっとしていても...何か、やっぱり楽しい...フフフ。メールをする元気が出てきた神島です。何時の間に...ブログ...できちゃっていたんですか？ 下らない事でも良いのですかねえ書き込んで...。【当たり前です。ブログですから】それなら書き込んでみようかなあ~。と、思っている今日この頃です。では、また。お休み下さい。やっぱ、何かフラフラしてきたとです。佐藤麻子 okasa.28_luglio-omot@jcom.home.ne.jp
受信日時：2005年12月02日 22:47

子供が産まれました

昨年11月3日の苫東工業団地の空き地でで行った七星会に参加していた、会長が通う北大の科学技術コミュニケーター養成ユニットの同級生、遠藤夫妻に子供が誕生しました【お夫婦は、デネブ前号62号8頁の集合写真参照：本人の写真は12頁に出ています】

1月18日午後5時44分に、無事第一子が誕生いたしました。3,500グラム強の元気で大きな女の子でした。英語圏でも同じ発音・スペルになる名前の中から考えて、「望名(もな)」と名付けました(届け出の前に気が変わらなければ、多分そうなる予定です)。微弱陣痛のため大変な難産で、家内は前駆陣痛から数えて4日間も陣痛で苦しみました。通常うつぶせて生まれるところを仰向けの形で子宮に入っていたため、頭がどこかに引っかかっていたことも、出て来づらかった原因ではないかと言うことです。最終的には吸引分娩で出てきました。また翌日知らされたのですが、首と肩にへその緒が巻き付いていたため、一つ間違えば大変危険だったそうです。まだ頭に残っている吸引の後の内出血がとてもかわいそうなのですが、幸いにも健康状態はよいらしく、元気に泣き続けています。家内も無事で、翌日から元気に歩いております。写真を一枚添付します。今後も親子共々宜しくお願いいたします。

遠藤 哲也

受信日時：2006年1月24日 24:04



遠藤家の宝は「望名(もな)」と名付けられました

新年会はお疲れ様でした

久し振りに智秀以外の会員に会えて、嬉しいやら楽しいやら。今度、またいつお会いできるのでしょうか。番外編の短編を書いてみましたので、会報の作製に間に合いましたら、どうぞお使いください。編集作業、いつもお任せして申し訳ありません。・ところで、エジプト行きですが、美香さんは絶対に行かないのでしょうか...？余りにも寂しすぎます。会長も寂しいですよね？3人だけだなんて、悲しいです。私も、ポーっとする余裕がないかも...何となく。何だか寂しすぎて、想像が付きません。何だか寂しすぎて、気持ちが盛り上がりません。あーああ、何とかならないでしょうか...

ではでは、希望を言って、本日は失礼いたします。美香さんにくれぐれも宜しくお伝えください。

佐藤 麻子 okasa.28_luglio-omot@jcom.home.ne.jp

受信日時：2006年1月25日 19:56



恵庭のガストでもらったサービス券

札幌天文倶楽部 会報「デネブ」 第63号

発行日 2005(平成18)年2月1日(印刷)

発行者 渡辺 和郎

編集委員 末澤朋代 今野利秋 川口裕美 神島麻子

印刷所 阪野テクニカル工房

発行所 札幌天文倶楽部 事務局

http://technical-atr.com/wata_hp/newpage1.htm

〒062-0933

札幌市豊平区平岸3条13丁目1-16 佐藤智秀 方

電話 携帯080-1877-0306

